

リベンジ! そして、ぐるぐるマンタの可能性

SPECIAL THANKS DAY DREAM PALAU
PHOTO&TEXT TAKAJI OCHI
DESIGN YOSHIKO MURATA
ART DIRECTION PANARIDESIGN

目の前で50匹ものマンタが、ぐるぐると旋回し、捕食を続けている。まるでシルク・ド・ソレイユの一流乱れぬパフォーマンスを見ているようだ。時にマンタたちは、プランクトンの豊富に集まる海域へと編隊を組んで移動を始める。一旦姿を消し、また海中を怒濤のように押し寄せてくる姿は圧巻だ。マンタを見慣れた僕でさえ、これほどの群れが大口を開けて突っ込んでくれば、興奮を隠すことはできない。2011年11月、辛酸をなめたマンタリサーチ、そのリベンジが、今ここに達成された!!



RESEARCH MANTAS IN PALAU

パラオマンタリサーチ

リベンジ！そして、 ぐるぐるマンタの 可能性

2011年11月、実際には別の取材目的で訪れたパラオ。しかし、その取材を行なう事が不可能になり、急遽行なったのが、デイドリーム（以下DD）がリサーチ中だった、北のマンタ捕食。「当たれば50匹は群れる」という少ない目撃情報と、未確定なリサーチ情報だけではあったけど、「何か今までに無い取材がしたい」というガイドの遠藤学さんの出した博打に近いターゲット撮影に同意して、取材を敢行した。

多くの費用をかけて、取材を行い不発に終わる。これほど、リスクな事は無い。にも関わらず、こんな無謀な賭けに出たのには、遠藤さんに少なくともそれなりの勝算があつてのことだと思った。が、結果はDDオリジナルポイントと呼んでいる、003でのマンタリサーチは、5日間訪れて1枚のマンタすらチラ見することなく、不発に終わった。

6年前、DDペリリューステーション開設直前に、当時同ステーションのガイドだった、秋野大さんと行なったWEB-LUE

取材を思い出した。まだペリリュエでの潮読みが今のように十分でなかった頃、ペリリュエの先端に群れるロウニンアジ

ジを撮影することは至難の技だった。そして、最初のロケで撮影ターゲットのロウニンアジの影すら見ることなく、取材を終えた。敗北感。水中カメラマンとしての意地、ガイドとしての意地。そんなものが、直後のリベンジ取材を行なわせ、ダウンカレントに捕まりながら、水深60m近くまで潜ってロウニンアジの群れを撮影し、リベンジを達成させた。

（リベンジ！パラオ・ペリリュエクスプレス
http://www.web-lue.com/magazine/img/vol05_005_peleliu.pdf）

今では、条件さえそろえば、当然のように見せてしまうロウニンアジの群れの撮影も、当時は「命がけの撮影」に思えた。

そして、今回もガイドとカメラマン、お互いの同じような思いが、リベンジ取材の動機となった。

辛酸をなめた昨年11月



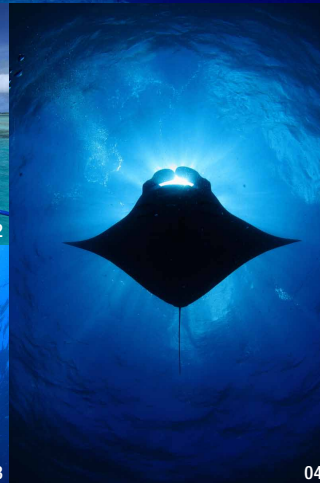
今では、高確率で見れるようになった、ペリリュエコーナーのロウニンアジの群れ



02



03



04

マンタが編隊を組んでやってきた

01 ペリリュエで、ダイビング談義で盛り上がるガイドたち

02 ジャーマンチャネルを通過

03 エントリーと同時に海中を見回す

04 マンタのシルエット



01

RESEARCH MANTAS IN PALAU

パラオマンタリサーチ

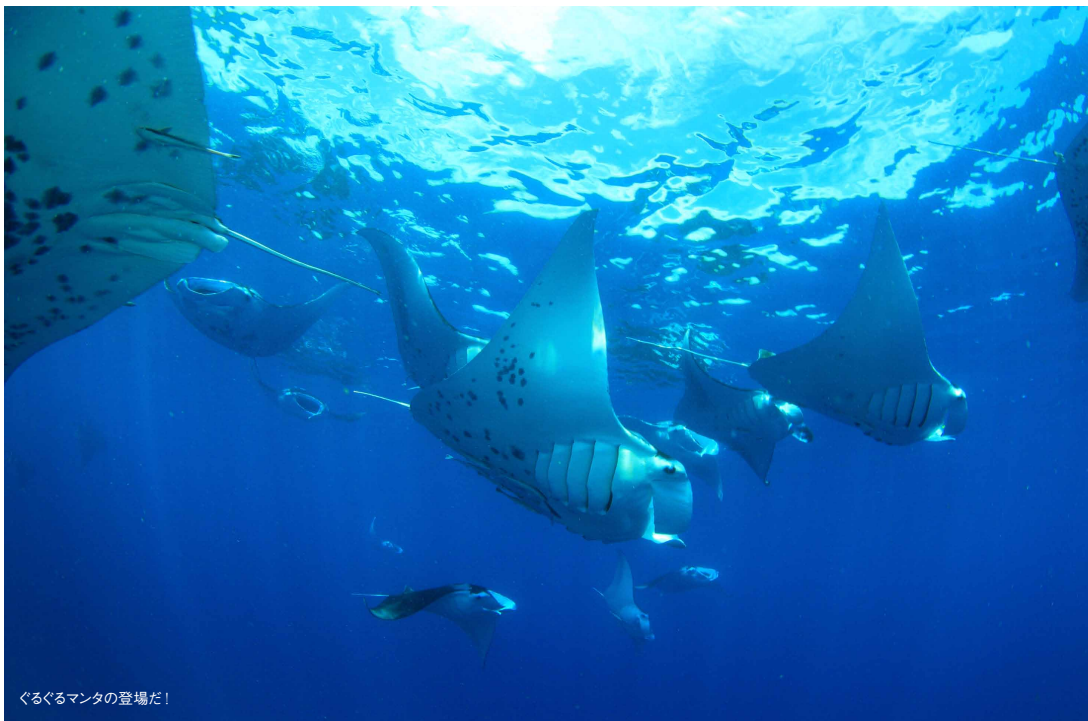


©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

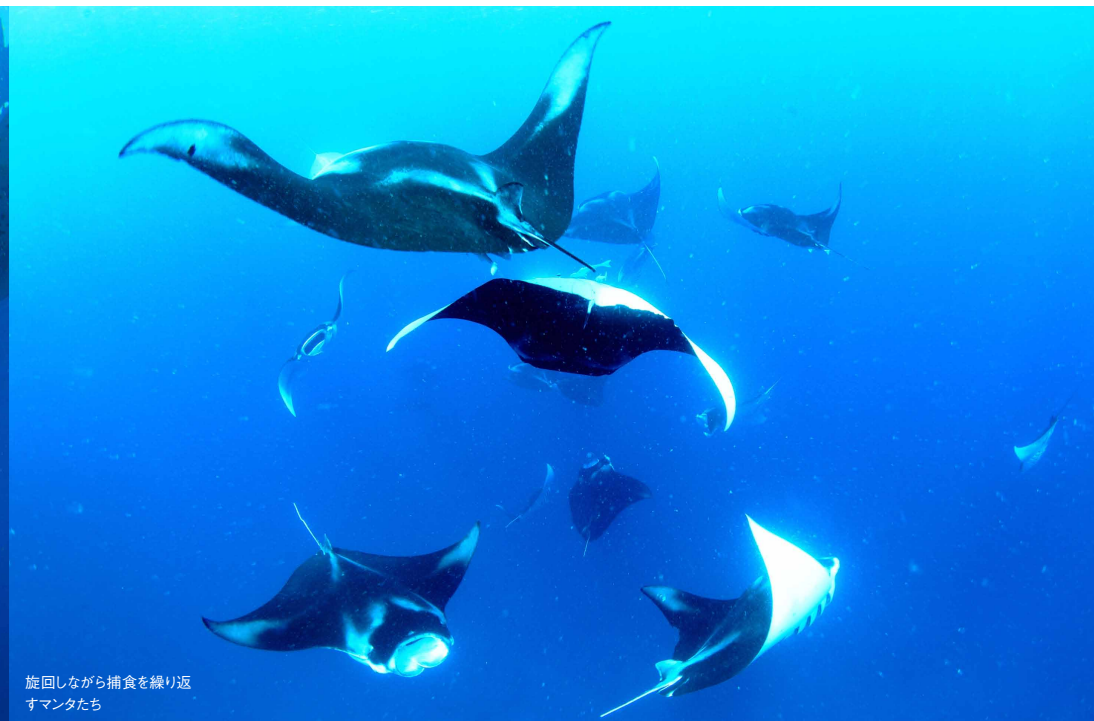


Information Link
<http://daydream.to/palau>

関連情報HPへ



ぐるぐるマンタの登場だ！



旋回しながら捕食を繰り返すマンタたち



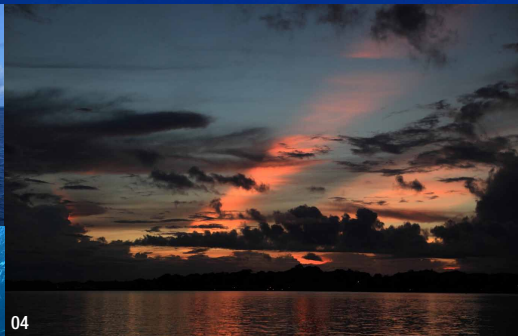
01



02



03



04

01 ぐるぐるマンタを求めて
出発

02 期待に胸膨らませて
エントリー

03 今回のリサーチでは、
天候にも恵まれた

04 早朝ダイブも行った

「3月、4月、5月、この辺りである条件がそろった時に、マンタが捕食で群れる可能性が高いです」遠藤さんのその説明と自分のロケスケジュールを見比べて、2012年4月前半、10日間ダイビングを行なう日程で、早々に取材スケジュールを組んだ。そして挑んだ今回

リベンジ取材開始！

の取材は、WEB-LUEではなく、ダイビング・ドット・コム、スキューバダイビング.jp、それにWEB-LUEの3サイトが統合して発足したocean+aの初海外ロケという形で行なわれた。

2011年の同じ時期、遠藤さんがマンタ狙いで003を訪れて、10匹以上の捕食マンタに遭遇したのは、10回中3回と少なかった。しかも、30匹程群れていたのが1回で、残りは

10匹程度。

今年に入ってから、今回の取材前に、4回程訪れていて、20匹程の群れに遭遇できたのが、たったの1回だけだったと聞かされていた。

14日中、遭遇は4日。勝率は3割弱……。

10日間のスケジュールでも果たして遭遇できる

のかどうか。時期が悪かったとは言え、前回の大外しの苦い経験もあり、「1日でもいいから当たってくれますように!」と祈らずにはいれなかった。

今回の取材には、ゲストダイバーも数名参加して行なわれた。こんな低い確率でも「ぐるぐるマンタを見たい」という人が集まったのだけど、中には、「当然見れるもの

だと思って参加した」という人もいた。

最初は驚いたけど、どうやら遠藤さんの伝え方、ゲストの解釈にも行き違いがあったようだ。しかし!こういう状況下では、「見れないかもしれない」という不安を持って挑むよりも、「当然見れるもの」と思っていてくれる方が、運も向いてきそうな気がした。

RESEARCH MANTAS IN PALAU

パラオマンタリサーチ



©ocean+a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://daydream.to/palau>

関連情報HPへ

リベンジ!そして、 ぐるぐるマンタの 可能性

50匹のマンタに、ガイドも興奮を隠せない
カメラを握りしめて、群れに突入!

RESEARCH MANTAS IN PALAU

パラオマンタリサーチ



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://daydream.to/palau>

◀click! 関連情報HPへ



出た！出た！出た！ぐるぐるマンタ！

怒濤のように押し寄せるマンタたち

11月の結果もあるし、これまでのリサーチ情報を聞いているし、あまり気合いを入れすぎないように臨んだ初日。ユウカクチャネルにある、003では、多少強い風を感じた。

「これではナブラ（水面で捕食するグルクンなどの群れが立てる海面の揺れ）を見つけにくいな」そう思いながら、ボートの縁に立ち、つま先立ちで、周囲の海を見渡す。遠藤さんも同じように船首に立ち、周囲を見渡していた。

リサーチを行なうに当たって、ジャーマンチャネルの捕食マンタと、003での捕食マンタの違いを聞いた。

「ジャーマンチャネルは、チャネル入り口から、湾奥に行けば行く程、狭まっているんです。だから、上げ潮に乗ってプランクトンが流されてきて集まる場所が、狭いエリアに限定される。だから、捕食マンタを見つけやすい

です。しかし、003のあるユウカクチャネルはチャネル入り口から幅が狭まることがあまりなく、堡礁内へと続く比較的幅の広いチャネルです。おまけにチャネルの外もかなり沖合まで水深がだらだらと落ち込む地形になっています。だから、色々な方向から潮がかりやすく、プランクトンの集まる場所も全然違って来るので、当然、マンタの出る場所も違ってきます」

そう話していた遠藤さんの言葉に納得しながら、広範囲に広がる捕食エリアを見回し続けた。

そのとき「いた！！マンタいた！！」相変わらず小声ながら、興奮気味に発した遠藤さんの指差す方向を見ると、ナブラの立つ周囲に、マンタの胸びれや、お腹側を上にして泳ぐ白い部分がはっきりと確認できた。

「やった！何匹くらい？」と訪ねると、「タクサン！タクサン！」とバラオ人スキッパーも嬉しそうに叫んだ。

接近すると、かなり激しく移動をしながら捕食しているようだった。「素潜りで行った方がいいよ！」僕はそう叫び、慌ててカメラハウジングからストロボの接続部分を外し、素潜りの体勢を整えて、一気にエントリーした。

マスクを海中につけた途端、目の前には、優に30匹を越えるマンタたちが、優雅に大空を飛ぶ猛禽類のごとくに胸びれをたな

びかせ、そして、夕焼け空を飛ぶ雁のように、一糸乱れぬ編隊を組んで突っ込んで来た。「すげー！すげー！！初日から大当たりだ！！」マンタを見慣れた自分でさえ、興奮を隠し切れず、シャッターを連射しながら、マンタに並走、追跡を繰り返しながら撮影を続けた。

当然見れると思ひ込みながら望んではいなかったものの、やはりどこかに、「見れなかったらどうしよう」という思いがまったく無いわけではなかった、しかし、もう今日の前には、現実にくるぐるマンタが、我が物顔で暴れ回って捕食を続けているのだ。

僕は無我夢中でマンタの捕食シーンを撮影し続けた。個体数は、目視で一度にカウントできたのが、20個体以上。トータルで40匹はいたと遠藤さんに言われた。スノーケリングで十分に撮影した後、今度はタンクを着けてエントリーし、違ったアングルからの撮影を行なった。

初日にして、リベンジ達成！これも、6年前のペリリューのロウニンアジと同じ結果。

撮影後「やっぱり越智さん、持ってますね〜」と遠藤さんに言われ、「まだまだ、こんなもんじゃ無いよ、きつ」と有頂天になっていた。しかし、その発言通り、翌日には50個体、翌々日にも、30個体近くのぐるぐるマンタたちに遭遇。100%、いや、120%のリベンジを果たすことができたのだ。



01



02

01 水面下を編隊を組んで移動するマンタ。場合によってはスキンドайビングの方が撮影しやすい

02 海中20m付近で、旋回しながら捕食を続けるマンタ。こんな場合はやっぱりタンクが必要

リベンジ！そして、ぐるぐるマンタの可能性

RESEARCH MANTAS IN PALAU

パラオマンタリサーチ



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
http://daydream.to/palau

関連情報HPへ



「やった! 何匹くらい?」と訪ねると、
「タクサン! タクサン!」と
パラオ人スキッパーも嬉しそうに叫んだ。

リベンジ! として、
ぐるぐるマンタの
可能性

RESEARCH MANTAS IN PALAU

パラオマンタリサーチ



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://daydream.to/palau>

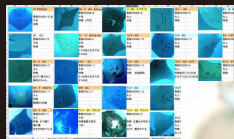
◀ 関連情報HPへ

Dでは、サービス創設時からパラオでのマンタ個体識別を継続して行なっている。今回の取材前までに、88匹のマンタが確認されていた。それが、この取材中に、新たに15匹が識別され、マンタの個体数は100を越え、103匹になった。最新の情報では、新たに数個体が加わり、2012年6月9日現在、110個体。

パラオでは、NECO MARINEというダイビングサービスもマンタの個体識別を行なっている。「約125個体くらいのデータがあるそうなので、それに近づいてきました～」と遠藤さん。

担当者の祥子さんに、この個体識別を通してわかった事を聞いてみた。

まず、「ジャーマンチャンネルと003のあるユーカクチャンネル周辺で同じ個体が確認されたの



マンタの個体識別リスト



マンタについて詳しく語る、ガイドの祥子さん

は、3個体のみ。あとは、全部違う個体です」とのこと。これは正直意外な結果だった。ちなみに、ジャーマンで確認されている個体は42匹（オス6匹、メス35匹、不明1匹）。ユウカクでは50匹（オス13匹、メス37匹）。あとは、西のシークレットスタジアムのクリーニングステーションとか、マラカルチャンネル、ゲロンアウト他などで確認されたマンタだ。

パラオで見られるマンタのほぼ99%がナンヨウマンタ。定住性の強い、小型の種類。この定住性のマンタの行動範囲がどれだけの

ものかは、定かではないが、ジャーマンとユーカクは、外洋のリーフに沿った距離で約100km、直線距離にして70km離れている。

このことから、両エリアには、違うマンタのグループが定住していると考えて良いのかもしれない。ちなみに

に、16km離れた、ジャーマンとその西のシークレットスタジアムでは、同じマンタの往来が高確率で確認されている。

シジャーマンでの、マンタ遭遇率のベストシーズンは11月から2月下旬くらい。その後1カ月ほどほとんどの個体が姿を消し、3月下旬くらいからまた姿を見せ始めるそうだ。それに対して、ユーカクのベストは12月半ばから6月後半くらいまで。昨年11月にユーカク(003)のマンタ狙いで潜りに行ったときには、マンタ遭遇率は0%だった。

「昨年の取材のデータを見れば11月はまだシーズンではないのかと思いますが、今回5月中に数回狙いに行った際も、11月同様に完全に外してしまいました。昨年はまだ群れが狙えていたにもかかわらず、ここまで極端に出なかったのには、おそらく餌となるプランクトンを多く含んだ潮が上がって来ていなかったことが原因として考えられると思います。昨年11月も同じようにプランクトンを含んだ潮が上がってきていなかったのも、もしかしたらいい潮さえ上がってくれば11月でも可能性があるのかなとも思い始めています。そう考えるとまだまだリサーチは必要ですね」と遠藤さん。

例えばヤップでは、同じ個体が西のチャンネルと東のチャンネルで両方確認されている。マンタのベストシーズンが夏は東、冬は西と明確に別れている。これに関して、遠藤さんは、「距離が離れていたとしても移動すべき理由

があれば、移動するはず。例えば、餌となる動物性プランクトンを含んだ潮が上がってきやすいコンディションが季節によって変わるとかね。風向きと地形や潮目のバランスによって表層の潮と下層の潮が入れ替わるとか、様々

要因で彼らにとっていい潮が上がってくる、来ないということが考えられると思います。ジャーマンとユーカクのマンタは、移動する必要があるのではないのでしょうか？一時的にマンタがいなくなったとしても、沖で跳ねたりしているのを見ることがあります。ダイビングエリアには来なくても、そのすぐ沖の表層から中層の間で普通に生活しているみたいなんです。ユーカクチャンネルは特にその傾向が強いように思えますが、これは沖合の中層に豊富な餌があるからではないでしょうか？」と推測する。

この他にも、メスよりオスの数が圧倒的に少ないということ。110個体中85個体がメス。これは他の板鰐類（サメ、エイ類）にも同じことが言えるのではあるが……。

確認されたブラックマンタの個体数は9個体。過去に、外洋性のオニイトマキエイらしきマンタが1個体のみ確認されているなどなど、継続して識別を行なうことで、少しずつではあるが、わかってきたことや疑問点などがこの根気のいる作業の中から新たに生まれて来る。研究者にとっても、貴重なデータに違いない。

「まだまだ継続して個体識別を続けなければ、正直本当にジャーマンとユウカクでマンタの往来がどの程度なのかは確定できませんね」と祥子さん。マンタに対する愛情も人一倍の彼女のリサーチは、今後も続けられて行くことだろう。



上からの写真では、個体識別は難しい



マンタの場合、このように腹部が見える写真で、腹部の模様で個体識別を行なう

RESEARCH MANTAS IN PALAU

パラオマンタリサーチ



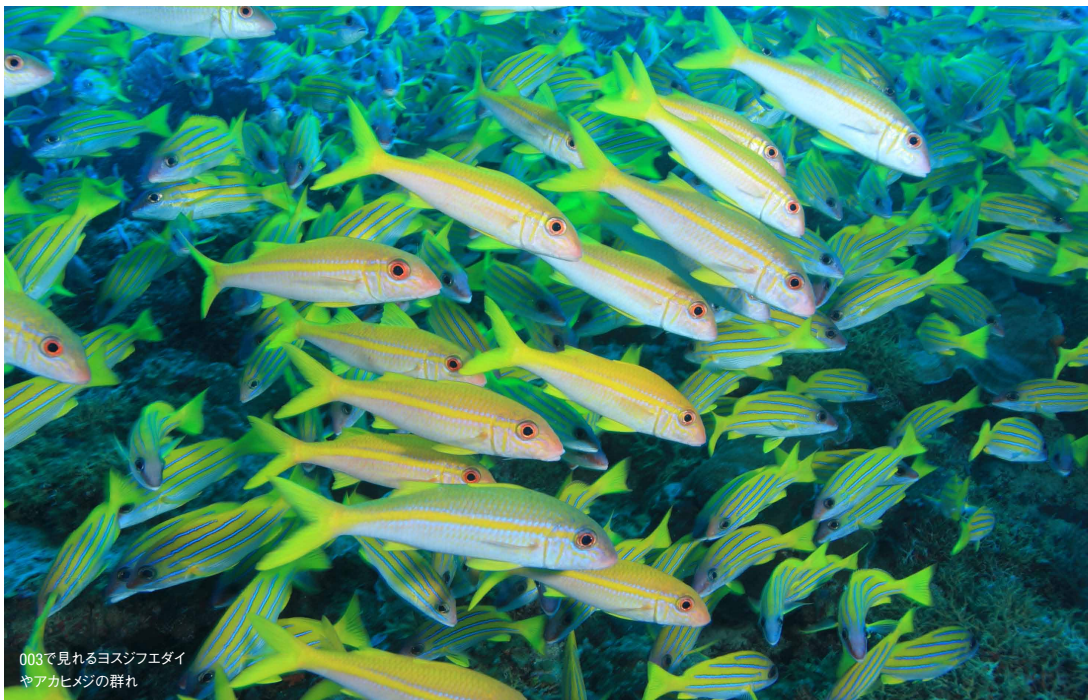
©Ocean+ a ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://daydream.to/palau>



関連情報HPへ



003で見るヨスジフエダイ
やアカヒメジの群れ

この時期は、ペリリューの
イレズミフエダイの群れも
シーズン

早朝のカムリブダイの大
産卵も狙える



003でツカエイが集まって
いた。交尾なのだろうか

ぐるぐるマンタ、気になる遭遇確率は？

さて、今回のリサーチロケでは、大当たりだった、ぐるぐるマンタ。昨年からリサーチも兼ねて、このぐるぐるマンタ狙いで船を出しているDD。その可能性と確率はどうか気になるところだ。

基本、狙える可能性があるのは、3月、4月、5月、ギリギリ6月くらいまでの時期。

「昨年は10回狙いに行って、10匹以上いたのが3回、そのうち1回が約30匹で、残りの2回は10匹くら

いでした。本当は12月下旬くらいから狙えるのではないかと考えているのですが1月から3月頭くらいまで比較的北東の風が強くなることで、上げ潮がきっちりかかるにはリスクを感じるコンディションになることが多いのであま

り狙いに行けていないんです」と遠藤さん。確率はそんなに高くは無いようだ。今年に関しては、4月までで9回中5回の遭遇。取材では4回中3回と高確率で遭遇できたものの、それでも決して高い遭遇確率とは言えない。

そして、取材後のGW期間中にもゲストを連れてリサーチに訪れたが、結果は惨敗だったようだ。今回の取材のようにひとたびプランクトンの多い潮がかかってくれば比較的好調に見れるものの、このいい潮が上がってこなかった場合は数日にわたって厳しい結果に終わってしまうという傾向が見えてきた。

現在開発中ではあるものの、003の近くには、ポイントが少ないために、マンタが出なかった時にフォローできる場所が無いというリスクさも抱えている。



しかし、この003、マンタがいなくても、どこかで上げ潮がきっちりかかればバラクーダやオオカマスの大群、ナンヨウトンバメウオの群れ、パラオ最大規模のヨスジフエダイの群れや各種エイ類などが見られる楽しいポイントではある。自分は、11月のリサーチでは、シルバーチップの撮影にも成功した。

そのために、「定番のダイビングスケジュールとして組み込むことは難しいので、大物、超大物、群れ物狙いでゲストが集まるペリリューステーションのオペレーションの一環としてペリリュエリアでのダイビングやウーロンエリアでのカムリブダイの産卵などとセットにして日程を決めてサファリを行うツアーを何本も打ち出す予定です」とのこと。またはゲストのリクエストで人数が揃えば、1隻船をチャーターする形

で狙いに出かけるパターンになるそう。ゲストにも遭遇確率の低さとリスクな部分を理解してもらった上でのチャレンジということになる。

そういう意味では、今回、3日間も30匹～50匹ものマンタと遭遇できた事は運が良かったと言わざるをえないのかもしれない。

「北マ」だと遠藤さんが教えてくれた。

ユウカクチャンネル内にある005,007などのクリーニングステーションは、DDの創設者、下田一司さん（現DDグループオーナー）が発見した。「そういう意味では、本来のDDが目指す方向性を改めて見いだせたのかなとも思います」。

「南はペリリュー、ルーカス、アンガウル、そして、北はカヤンゲル、R018、003などを含めた、パラオハードリピーター向けの南北縦断。これが今できるのは、デイドリームしかないのではと自負しています」と遠藤さん。

確かに、今回レストランで食事をしていた、こんな事を言われた。「越智さんの写真が、パラオに来るゲストのリクエストのハードルを高くするので困る」。これは、他のダイビングサービスのガイドの声だという。

「僕の写真=DDが見せるダイビング」な訳で、まあ多くのガイドにとっては大変な事なのかもしれない。今回のぐるぐるマンタだけでなく、ペリリューの開拓期から、ずっと彼らが新たに見だすものを撮影し続けて来た。これだけ開拓されたパラオの海で、またまた新たな魅力を見つけ出すことは、本当に大変なことだと思う。しかし、「デイドリーム」の名前通り、彼らがダイビングに求めるもの、ゲストに提供したいと思っているものは、「夢」だ。そういう思いがいまだにパラオの海に対しての飽くなき探究心へ繋がっているのだと感じた。

RESEARCH MANTAS IN PALAU

パラオマンタリサーチ



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://daydream.to/palau>

関連情報HPへ

GUEST DIVERS リサーチに参加したゲスト



藤井 恵子さん
ダイビング本数: 約200本
「マンタ一生分見ましたー!!」

渡辺 美紀さん
ダイビング本数: 約1200本
「あんなに沢山のアグレッシブなマンタ、凄過ぎて、言葉になりません! 異次元にトリップしたみたい! 優雅な動きは、いつまでも見ていた光景でした!」

樋口 頼子さん
ダイビング本数: 約380本
「あんなマンタ初めて見た! 凄いです」



増淵 良昭さん
ダイビング本数: 約2000本
「触れる程の距離にこれだけの数のマンタが近よってきてくれたのに、感動しました」



中村 由紀子さん
ダイビング本数: 769本
「子マンタが人懐っこくて可愛い! モルディブに比べて透明度が良いし、ブラックマンタが混じっていて感動しました」

奥村 祐子さん
ダイビング本数: 966本
「モルディブのリベンジのつもりで来たので、リベンジ達成!」



生田目 卓治さん
ダイビング本数: 197本
「最初から見れるものだと思って参加しました。マンタが口を開けて行進してくるのが最高でした!」

生田目 幹子さん
ダイビング本数: 441本
「私もモルディブのリベンジで来ました。モルディブより、透明度が高いし、個体の大きさも大きいので迫力がありました」



手塚 源太さん
ダイビング本数: 約470本
「マンタに食べられちゃいたかったくらい凄かったです!」



西山 泰広さん
ダイビング本数: 約250本
「マンタカクヘン中! パラオ、まだまだ奥が深いです!」

DAY DREAM PALAU デイドリームパラオ

パラオのコロール、ベリリユー、グアム、に店舗を持つ。ビギナーからベテランダイバーまで幅広い層のゲストに対応。クルーズ船「龍馬」は少しゴージャスなダイビングクルーズを提供してくれる。

今回の取材のように、ダイバーに「夢」を与える事を信条にした、ダイビングスタイルが、

パラオの海の新たな開拓の先陣を切る、いわば、ダイビングフロンティアのリーダーシップ的な存在としての位置を確立しているといえるショップだ。

今後もどんな新たなパラオの海を見せてくれるのか、楽しみなサービス。



「確率はまだまだ低いけど、データをもっと集めます。マンタの次の狙いはマクロです!」とオールマイティなガイディングを見せる遠藤さん。



デイドリームパラオ、スタッフ一同



マラカル島にある、デイドリームパラオ

RESEARCH MANTAS IN PALAU パラオマンタリサーチ